

生涯学習と音楽

人とのつながりの中で音楽を学ぶことの
意味とその支援について

1. 生涯学習社会における音楽活動の意義

- (1) 生涯学習とは
- (2) 生涯学習社会とは
- (3) 音楽を通じた学習の特性

2. 「つながり」を生み出す学びの効果

- (1) 居場所
- (2) 変身資産

3. ファシリテーション・スキル（指導から支援へ）

- (1) 成人学習の特徴
- (2) 学習支援のコツ

はじめに

質問:子供のころ(中2・14歳ごろ)どんな気持ちで勉強をしていましたか。
最も近いものを2つ選んでみてください。

- ①新しいことを知るのがうれしいから
- ②問題を解くことがおもしろいから
- ③ふだんの生活に役立つから
- ④自分の希望する高校や大学に進みたいから
- ⑤友だちに負けたくないから
- ⑥成績がよいと周りの人がほめてくれるから
- ⑦先生や親にしかられたくないから
- ⑧周りの人に頭がよいと思われたいから

1. 生涯学習社会における音楽活動の意義

(1) 生涯学習

国民一人一人が、**自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう**、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習すること（教育基本法第3条より）

学習動機づけ(オリエンテーション)

内発的動機づけ・・・①②

内容に対する好奇心や関心
によってもたらされる動機

外発的動機づけ・・・③～⑧

内容ではなく、外的な目的
や理由によってもたらされる
動機(賞罰、憧憬、不安)

持続性・高



学習の習慣や価値づけは、子ども期からの成功経験によって強化され続ける(education more educationの法則)ため、内発的動機づけに基づく学習活動になるよう支援が必要

1. 生涯学習社会における音楽活動の意義

(2) 生涯学習社会

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会（教育基本法第3条より）

個人の課題解決だけでなく、
社会の課題解決、社会参加や
協働につながる学習機会の推進

3つの学習志向性

目標志向・・・目標達成（資格取得、職能向上etc.）
の手段として学習しようとする

活動志向・・・学習機会への参加を通じて、何か
（友人を見つける、会話をする、規則正しい生活をするetc.）を得ようとする

学習志向・・・学習すること（知識習得、技能向上）
自体に意味を見出そうとする

(Houle, C.)

ちなみに、現在の学校教育でも・・・

社会の課題解決、社会参加や協働につながる学習機会



「学びに向かう力」

学んだことを**活**かすこと，その成果をもっと**活**かしたいと感じたり，もっとうまく**活用**するための改善点を考え，試行錯誤しつづける所までをゴールに設定し，学習機会を提供することに重点が置かれている

学んだことを人生や
社会に生かそうとする
学びに向かう力、
人間性など



実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくる
(学習指導要領総則編・前文)

1. 生涯学習社会における音楽活動の意義

(3) 音楽を通じた学習の特性

① コミュニケーション (情報伝達) の道具

→ 言語コミュニケーション

: 難易度が固く、失敗・誤解が生じやすい。

: 苦手意識や困難さを感じる人も少なくない。

→ 非言語コミュニケーション

(ノンバーバル・コミュニケーション)

: 感覚的, 体験的に理解しやすい。

「調子を合わせる」「ハーモニー」

: 難易度が設定しやすいため、**言語コミュニケーション**を得手としない**学習者**にとってとくに重要。

音楽だけが世界語であり、翻訳される必要がない。
そこにおいては魂が魂に話しかける。

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685~1750)

共生社会の実現に向けた学習方法の一つ

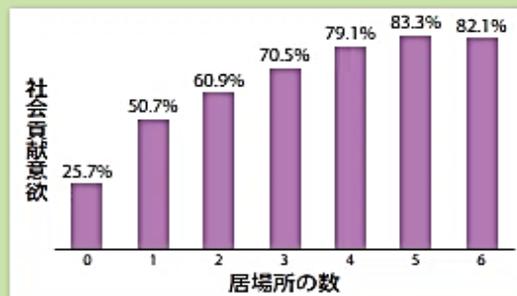
音楽を通じて、地域の課題解決、社会参加や協働に**つながる**機会を作る支援
= 地域音楽コーディネーターの役割

2. 「つながり」を生み出す学びの効果

(1) 居場所

本人にとって居心地が良いと思えるものであれば、どんな場所・時間・人との関係性であっても居場所

⑥居場所の数と自己認識の関係



※19年度のデータ

内閣府「子供・若者総合調査」の実施に向けた調査研究（令和3年度概要版）令和4年1月1日現在、10～15歳の男女3600人対象調査

2. 「つながり」を生み出す学びの効果

(2) 変身資産

『LIFE SHIFT』(リンダ・グラットン他)

人生を豊かにする資産には有形資産（金銭etc.）と無形資産があり、

無形資産は「生産性資産」（知識や技術）、「活力資産」（精神的・肉体的な健康と幸福感）、「変身資産」に分けられる。

変身資産とは、時代や状況の変化に応じて変わっていくきっかけのようなものであり、例えば、「自分についてよく知っていること」や、「多様な人的ネットワーク」、「新しい経験を喜べる気持ち」などがあげられる。

学習を通じ、日常とは異なる経験をしたり、同僚や家族ではないにととの関係性を築くことをねらったプログラムが注目されている。

人間の行動は、パーソナリティ特性と環境（境遇・社会的役割etc.）によって決定される（K・レヴィン）

例) プロボノ (Pro Bono Publico: 公共善のために)
職業上のスキル・経験を活かして社会的または公共的な目的のために取り組む社会貢献活動

例) 越境学習
組織の枠を飛び越えて、普段とは違う環境での経験から学びを得る手法。

3. ファシリテーション・スキル（指導から支援へ）

(1) 成人学習の特徴

（成人＝年齢ではなく、自らの学習に責任を持つ意識）

- ①体系化された知識等よりも、参加者の偶発的な経験の蓄積を学習資源として相互に利活用しようとする
- ②「学び方」を適正・状況に合わせて自分で選択しようとする
- ③学習効果の即時性の重視（活かすために学ぶ）

3. ファシリテーション・スキル（指導から支援へ）

(2) 学習支援のコツ

①目標の設定を重視する

立場の異なる他者どうしが、共通の目的に向かってともに協力し合うプロセスを大事にする

=常に目標（何のためにやるのか）を意識して伝え、合意形成に努める

②学習成果の活用場面を重視する

具体的な取り組みを提案し、実行してみることを大にする

=学んだことが役立ちやすい方法・環境はどこかを意識して合意形成に努める

③振り返りを重視する

関係者すべての成果を振り返り、共感・納得しあう時間を大切にする